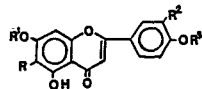


[目的] セージはシソ科に属するハーブ系香辛料の一つで、特に肉類の燻臭を目的として広く用いられているが、また抗酸化性や抗菌性を示すことも知られている。演者らは香辛料の化学成分の構造解明を目的としてこれまでにセージからジテルペン化合物を単離してきたが、今回はさらにフラボノイドを単離し構造決定した。

[方法及び結果] ギリシア産セージの乾燥葉を粉砕後、塩化メチレンで抽出し、残渣をさらにメタノールで抽出した。塩化メチレン抽出物は水蒸気蒸留し非揮発性成分を常法により分画し、弱酸性区分を  $\text{SiO}_2$  カラムクロマトグラフィーで精製しフラボン(F-I~Ⅳ)を構造決定した。またメタノール抽出物は、酢酸エチル、水で分配し酢酸エチル層を濃縮し同様に精製しフラボン(F-V~Ⅶ)を単離した。F-Iは、m.p. 188 °C、MSでは $m/z$  328 ( $M^+$ , base),  $^1\text{H-NMR}$ では $\delta$  3.89(3H, s), 3.92(3H, s), 3.96(3H, s), 6.53(1H, s), 6.56(1H, s), 6.99(2H, d,  $J=9.0\text{Hz}$ ), 7.81(2H, d,  $J=9.0\text{Hz}$ ), 12.79(1H, s,  $\text{D}_2\text{O}$  exchangeable) が得られた。IR, UV $^{\text{c}}$ -NMRの結果をあわせてF-Iを5-hydroxy-6,7,4'-trimethoxyflavoneと決定した。さらに、F-IIは5,4'-dihydroxy-6,7-dimethoxyflavone, F-IIIはgenkwaninと構造決定した。またメタノール抽出物からも同様に種々のスペクトルデータより、F-IVをapigenin, F-Vを5,7,4'-trihydroxy-6-methoxyflavone, F-VIをluteolinと決定した。



	R	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	R <sup>3</sup>		R	R <sup>1</sup>	R <sup>2</sup>	R <sup>3</sup>
I	OMe	Me	H	Me	IV	H	H	H	H
II	OMe	Me	H	H	V	OMe	H	H	H
III	H	Me	H	H	VI	H	H	OH	H

1) 中谷 政家, 不破, 61年度農芸化学会講演要旨集,